

観光産業人材確保へ

新課程志願者向け講座拡大

県立大、静岡文化芸術大

県立大(静岡市駿河区)と静岡文化芸術大(浜松市中区)に2019年度新設される観光産業関連の教育課程の志願者確保に向け、両大学と県は18年度に予定している観光人材育成講座の開催規模を拡大する。各回200人以上の参加を見込んで7月以降、県東部、中部、西部の県内3カ所で実施する。

(政治部・宮嶋尚顕)



受験を検討する高校生や保護者、高校教職員、観光関連事業者らを対象に、7月14日に静岡文化芸術大、同27日に三島市民文化会館、9月ごろに静岡市内で計3回、それぞれ200〜300人の参加を想定して開催する。観光産業の関係者による講演のほか、両学長による鼎談(てい)

だん)、新教育課程の説明を予定する。同講座は16年度から、毎回、数十人規模で開催してきたが、18年度は参加枠を増やして広く志願者の確保を図る。県立大は経営情報学部の定員を25人増やし、学部内に「観光マネジメントメジャー(専攻)」を導入。本の観光関連ビジネスをけん引する人材の育成を目指す。静岡文化芸術大は文化政策学部の定員を10人増やし、学部内に学科学断の「文明観光学コース」を新設。幅広く観光資源を発掘、開拓できる人材の育成を掲げる。観光振興は地域経済を活性化させる重要分野として政府が成長戦略の柱に据える。両大学への観光産業の教育

課程新設は、川勝平太知事が16年の県議会9月定例会で検討を表明した。